Ⅳ　目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立　　西深津小　　学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価（10月１日）				最終評価（２月末）				
							□指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期（中期）経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価	総合評価	改善方策
6	児童の主体的・対話的で深い学びを全教室で展開	★	継続	児童の学ぶ姿から「学びの深まりをつくり出す学習活動」を実践する。	・基礎学力を定着させるため，チャレンジタイムに学校全体で計画的に取り組む。 ・子どもと共に創る学びの授業計画から改善まで組織的に取り組む。	・学びの伸びを把握する調査(前年度より伸びた児童)70%以上 ・単元末テスト思考・判断・表現のB評価65%以上 ・児童アンケート（自分で課題を見つけ進んで取り組んでいる）肯定的回答85%以上	・学びの伸び前年度より伸びた児童は７２，８%で目標を達成できた。マイチャレンジタイムで自分で課題を見つけつまづきを知ったうえで取り組むことができた。 ・児童アンケート肯定的回答は76%で目標を達成できなかった。毎週木曜日に教材研究タイムを設け，本質的な問いを見つけ，そこから子どもの発言をつなげられるよう研修を進めた。	３	３	・特に課題の大きい算数科において，式の中の数字が示すものを図や言葉で説明させるなど，数や算数の言葉にこだわって指導する。 ・全教科で児童の学びをつなぐための問いをもとにした教材研究を継続する。	・単元末テスト思考・判断・表現のB評価は，国語７４，７%，算数６３，４%で目標を ほぼ達成できた。自分で課題を見つけマイチャレンジタイムに取り組むことはできていた。選択することで自己決定感に結び付けようとしたが，目的意識が希薄であった ・児童アンケート肯定的回答は69%で目標を達成できなかった。問いをもとにした教材研究を行い，思考をつなぎ合わせて算数科では数や言葉をつないで説明する機会を多くするなどしたが，基盤となる知識・理解を十分身に付けさせられていなかった。	３	３	３	・児童に学びの中で何のために選択するのか，そうすることでどんなかがつくのか等を語って意味付けを行い，自己決定感・自己肯定感に結び付けられるようにする。 ・児童理解を深め，一人一人に確かな知識・技能を身に付けさせる授業力を高める。そのうえで，児童が身に付けた知識・技能を活用して思考・判断・表現する授業を目指す。
3	安心して，自己の可能性を発揮できる環境づくり	★	見直し	児童の自己肯定感・自己指導力を高める。	・学期初めに自己目標を掲げ，達成に向けて取り組む。	・学期の中間および最終で振り返りを行い，自分のよさや伸びを把握する。満足度８０%以上。	・自分のよさや伸びへの肯定的な評価は７８%であるが，中間振り返りをすることで，自己を見つめる機会を増やすことができた。	３	３	・中間での振り返りだけでなく，今後回数を増やすことで，課題や伸びをより意識できるようにする。	・自分のよさや伸びへの肯定的な評価は６７%である。 ・自己評価に加え友だちからの肯定的な評価も合わせて目標の振り返りを行ったが，意識の向上に結びつきにくかった。	３	２	２	・掲げた自己目標の達成感を感じさせる取組みに加え，日々の授業や生活等の場面で，意図的に児童一人一人のよさを発揮する場を設定し，積極的に肯定的評価を与えることを積み重ねていく。
				児童が，地域に愛着を持ち，地域の一員としての自覚を持つ。	・活動や行事等を行う際に，地域のためにできること，地域の役に立てることを意識して取り組む。	・地域に貢献できたことを振り返る。満足度８５%以上。	・西深津への愛着度が８８%である。 ・学年に応じて，地域の資源を取り上げたり，地域の人とのかかわりを深めたりしたことから，地域に返していける活動を仕組んだりすることで，地域の一員である意識を高めることができた。	３	３	・地域の「人・もの・こと」とかかわる活動を継続し，そこから学んだことや感じたこと等を発信する活動を通して，地域への愛着と貢献する気持ちを高めていく。	・西深津への愛着度が８５%である。 ・肯定的評価が若干下がってはいるものの，発表会での地域発信に向けた取組みや，地域行事への参加，相手意識をもってお手紙等を書くことを通して，地域とのかかわりの場を積み重ねることができた。	４	３	３	・引き続き，子どもの主体的な発想をもとに，地域の人や物と積極的にかかわる場を，生活科や総合的な学習の時間を中心に，目的や相手意識を明確にして，全学年で設定していく。
1	教職員がやりがいをもち，良さを発揮できる取組の推進		新規	教職員が子どもと共に，学ぶ楽しさを実感し，力を伸ばし発揮することにチャレンジする。	・日常的に授業などを見合い，お互いの教育活動のよさやチャレンジから学び，伝え合う。	・教師アンケート「仕事にやりがいを感じている」90%以上	・教師アンケート「仕事にやりがいを感じている」の肯定的な評価100%であった。授業研修後の振り返りを行い，教員一人一人が授業について考えたことや取り入れたいことなど感想をクロムブックを使い共有した。お互いの良さを伝え合うことができた。	３	３	・引き続き，研修での成果や日ごろの指導について，教職員同士が共有する場を設け，授業改善や学級での指導に生かしていく。	・授業研修のためのニーズ研修を行うことで，教材研究の深さを知り，授業改善へと活かすことができた。 ・授業を見合い，授業参観後の感想を伝え合うことで，自分も次はこうしてみようと挑戦するきっかけとなり，教職員のモチベーションも上がった。	４	３	３	・教職員同士の対話を通して，授業研究のためだけではなく，日常的な授業のことでも学年を越えてこれからも交流していく。 ・ニーズ研修を行うなど，授業を行う上での悩みや改善方法などを出し合う機会を増やし授業の質の向上へとつなげていく。

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く，状況の変化，問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず，状況の変化，問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し，十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し，望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し，一定の成果をあげた。
2	目標を下回り，成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り，成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。